

## 麻酔科

### 《概要》

平成 20 年度は当院麻酔科にとって、かつてない激動の年となりました。平成 19 年度初めに入れ替わったばかりの常勤麻酔科医が、平成 19 年度末に全員退職する事態となったためです。退職の理由は、それぞれの麻酔科医の個人的事情でありましたが、医師不足のため、代替りの麻酔科医は、大学医局からは派遣されませんでした。そして当院に麻酔科医が不在になるということは、社会的なニュースとしても取り上げられました。麻酔科医確保のため病院は、特定の大学医局に麻酔科医派遣を要請するのではなく、全国から幅広く公募することにしました。その結果、非常勤麻酔科医として、4 月中旬、7 月、9 月に 1 名ずつ赴任しましたが、麻酔科マンパワー不足の状態は約 5 ヶ月間続きました。常勤麻酔科医としては、9 月に小林俊司医師が科長として赴任、続いて 10 月に仲谷憲医師、平成 21 年 1 月に久場良彦医師がそれぞれ赴任し、麻酔科のマンパワーは平成 20 年度後半になって、ようやく平成 19 年度以前のレベルにまで回復しました。

現在の麻酔科スタッフは特定の大学医局出身ではありませんが、それぞれ様々な環境で経験を積んできたベテラン揃いです。常勤麻酔科医 3 名は全員が麻酔科標榜医、および日本麻酔科学会指導医の資格を持ち、非常勤麻酔科医も全員が麻酔科標榜医を、1 名は日本麻酔科学会専門医の資格も併せ持っています。その他、日本救急医学会専門医、産業医、医学博士号等を併せ持つ者、循環器内科の経験者など、バラエティに富んでいます。

平成 20 年度、市や病院には麻酔科医不在という非常事態を乗り切るため、麻酔科医の職場環境を良くすることに尽力していただきました。私たち麻酔科スタッフは、その期待に応えなければなりません。そこで麻酔科の平成 20 年度目標は、市民や病院のニーズに応えられる「役立つ麻酔科」とし、具体的には次のような項目を実践しました。

1. 予定、緊急手術をできる限り受け、麻酔件数を増加すること。その一方で麻酔科医が疲弊しないよう、労働環境には十分な配慮をすること。
2. 術前診察、麻酔の説明と同意書の取得、そして術後診察という手術前後の流れを重視し、麻酔の安全と、患者様に対する丁寧なインフォームド・コンセントを確立すること。
3. がん拠点病院を視野に入れ、緩和ケアチームの一員として麻酔科医も機能すること。それに関連し、ペイン・クリニックを拡充すること。
4. 研修医、若手医師の教育に重点を置くこと。救急救命士の挿管実習にも貢献すること。

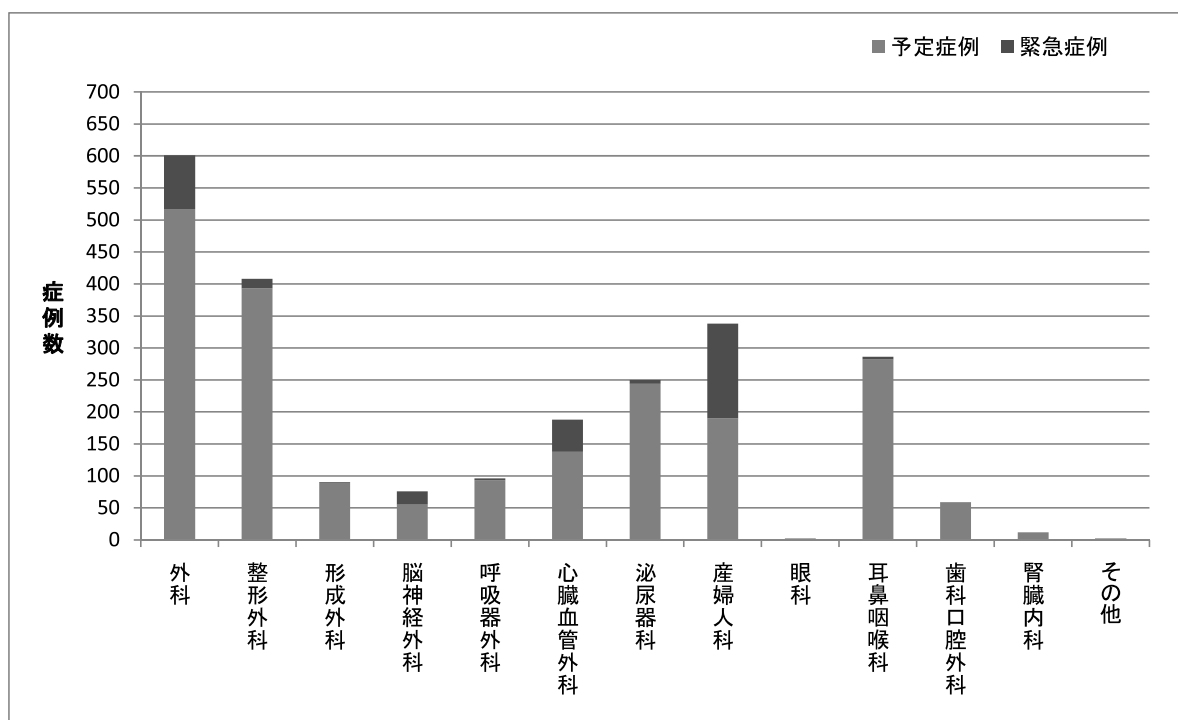
ゼロからのスタートとなった平成 20 年度の麻酔科でしたが、年度末には年間の総麻酔管理件数が 2408 件と、平成 19 年度の 1515 件を大きく上回ることができました。麻酔科スタッフも頑張りましたが、これは麻酔科の環境を良くしていただいた市や病院関係者、また支えて下さった周りの方々のお陰だと思えます。麻酔科スタッフ一同、これからも皆様の期待に応え、恩返しができるように、更なる進化を目指して平成 21 年度を過ごしていきたいと考えています。

## 《実績》

科別麻酔症例数(2008. 4. 1～2009. 3. 31)

	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓血管外科	泌尿器科
予定症例	517	393	89	55	93	138	244
緊急症例	84	15	1	21	3	50	6
計	601	408	90	76	96	188	250

産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	腎臓内科	その他	合計
190	1	282	58	12	1	2,073
148	1	4	1	0	1	335
338	2	286	59	12	2	2,408



## 《業績》

### (1) 原著、総説、著書 (2008.4~2009.3)

番号整理	題名	著者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	薬剤溶出ステント(drug eluting stent:DES)を植え込まれた患者の非心臓手術における周術期管理	荒井章臣 北 貴志 佐々木繁太	麻酔	57	879-885	2008
2	両室ペースメーカー作動中に電気メスによる干渉を考慮しつつ腎摘出術を施行した1症例	滝本佳子 荒井章臣 北 貴志 佐々木繁太	麻酔	58	96-99	2009
3	Anesthesia for pediatric patients with foreign bodies - 57cases	Daniel Kohira, Ken Nakatani	Clin Pediatr Anesth	13	158-163	2007

### (2) 学会研究会報告 (2008.4~2009.3)

番号整理	演題	発表者	学会・研究会名	年月日
1	覚醒・抜管時における、レミフェンタニルの至適速度	永田洋一 小林俊司 水野香織 木下恵理 藤井俊輔 青嶋由紀江	日本麻酔科学会 第55回学術集会	2008.6.12~14
2	脊髄くも膜下麻酔でのターニケット使用手術における血圧・脈拍変動	尾崎貴美子 小林俊司 横山純一郎 渥美和之 渡辺 薫 畠野 梓	日本麻酔科学会 第55回学術集会	2008.6.12~14
3	両室ペースメーカー作動中に電気メスによる干渉を考慮しつつ腎摘出術を施行した1症例	滝本佳子 荒井章臣 北 貴志 佐々木繁太	日本麻酔科学会 第55回学術集会	2008.6.12~14
4	MRI 検査の麻酔	仲谷 憲	日本麻酔科学会 第55回学術集会	2008.6.12~14
5	術中合併症・レミフェンタニル・症例(座長)	仲谷 憲	日本麻酔科学会 第55回学術集会	2008.6.12~14

### (3) 院内研究活動 (2008.4~2009.3)

番号整理	演題	発表者	年月日
1	新しい麻酔薬による麻酔法の変化	小林俊司	2009.3.26 臨床集談会